

リレーオリエンテーリングのコースってどうやって設定しているの？

そんな疑問にストレートに答えます。

2005年12月18日 岡山県白石島  
全日本リレーオリエンテーリング大会

## オリエンテーリングの真髄

オリエンテーリング競技は決められたコントロールさえ回ってくれば、そのルート取りは競技者の自由。オリエンテーリングが他の競技と大きく違うところだ。

この自由な中にもナビゲーションと体力を試し、なおかつイベントとして楽しいコースが提供されたとき、参加者は挑戦意欲を掻き立てられ、自分の脳と体力が最大限に回り始める。このときに脳内に分泌される快感はもはや麻薬と言ってよく、この快感を求めて愛好家は今度の週末も森を走るのだ。

どれだけ参加者が満足できるかは、どれだけ楽しいコースが提供できるかにかかっている。オリエンテーリングの真髄はまさにコース設定にあるといっても過言ではない。



リレーの醍醐味はチェンジオーバーにある

## リレーは会場が決まる

さて、話は先日岡山で行われた全日本リレー大会に遡る3年前。私の出身地が岡山県境に近いということで、開催について相談された。

「白石島のような場所でホントに全日本リレーができるでしょうか？」

岡山の皆さんはトレインが競技に適切かどうかを心配されていた。しかし現地入りした私が見たのは森ではなかった。私が見たのは、会場周辺のレイ

アウトだった。

まず、会場がリレー会場として適しているかが一番重要だ。トレインの良し悪しは二の次。

- (1) チェンジオーバーができる会場なのか？
- (2) 前走者の接近を会場からどのように確認することができるのか？
- (3) 中間スペクテーターズレーンを作ることができるか？
- (4) 一斉スタートできるスペースがあるか？ 周囲から応援できるスペースがあるか？
- (5) 電源はあるか？ 放送設備をどうするか？
- (6) 会場アクセスは良いか？
- (7) 荒天時の退避スペースはあるか？

大丈夫。ここはリレー会場としてまたとない適地だ。島で行う全国大会として売り出せば、参加者、行政ともに高い関心が集まるプロモーションができそうだ。全日本リレー成功への道筋が頭の中に見えてきた。



会場周辺を視察し、イベントプランを練る。全日本リレーに向けたコースプランでは最初の段階。

## 全日本リレーって？

「白石島のような場所でホントに全日本リレーができるのでしょうか？」

「大丈夫です。ここはリレー会場として適地です。」

「肝心のトレインはどうでしょうか？ 通行可能度が決して良いとは言えません。」

「全日本リレーとは夏の国体と同じ地域で行うことをコンセプトとしています。トレインの良し悪しは関係ありません。それが全日本リレーというものです。」

「岡山県でも県北に行けば通行可能度の良いトレインがありますが、そこ

を開発できるだけの採算や運営の見通しが立ちません。この白石島で全日本リレーができるなら、それに越した事はありません。」



夏の国体と同じ場所でオリエンテーリングを行うことが全日本リレーのコンセプトだ。トレインの良し悪しは関係ない。

「全日本リレーコースでの優先順位は以下の通りです。いいですか？」

この時に私が語ったことが、今回の全日本リレーコースの思想を全て物語っている。

## 公正なレースを提供すること

「まず、第一は公正なレースを提供することです。不正確な地図や運の介在するようなヤブの中にコントロールを設置するくらいなら、全て道にコントロールを置きましょう。スポーツにおいて最も重要なことは行為と結果がストレートに結びつくことです。公平性に関して不満が多く出るようではいけません。」



男子ジュニアは京都が優勝。彼らが勝者として賞賛されるのは公正な競技で勝利したからだ。

## 面白いコースを提供すること

「トレインは面的な広がりを見せませんが、結果的にランナーが走るコースはたった1本の線でもありません。このコースをいかに面白く組むか、いかにランナーに課題を提供するか

が重要です。道を守るコースでも十分に面白いレースを提供することができます。レースが高速になればなるだけ、それだけナビゲーションも難しくなります。見通しの利かない森では、小径の向こう側にある地形が読めず、通行可能度の良いトレインより難易度が上がります。小径を間違えずに辿るのも、高速レースでは難しいはずですよ。」



ランナーと応援する観客。このレイアウトを実現することもコースプランのうち。

## 良い地図を提供すること

「良い地図を作成することで、より公正な競技を提供することができます。さらにルート選択の課題を与えるコース設定ができます。違うルートを選んだ競技者に対しても公正なレースを提供できるからです。」

## トレインの良さは

「これらに加えて、最後にトレインが良ければ、よりルートが多様に選べるコース設定が可能になるというだけです。あくまでも競技の公正性が最重要で、トレインの良さは競技の公正性には関係ありません。白石島には島ならではの課題設定もできるので、一般的に言われる森の通行可能度はあまり関係ありません。」

## コーステーマは海物語

一般的にオリエンテーリングは森のスポーツ、山のスポーツという印象がある。しかし今回は全日本リレー史上初めて瀬戸内海の島での開催だ。大会のプロモーションで海と島を全面に出して行うのはもちろんだが、コースも白石島を感じさせる設定にしたい。

公正な競技条件と適切な課題をコース織り込んだ上で、出来る限り海と島のエッセンスをコースに取り入れよう

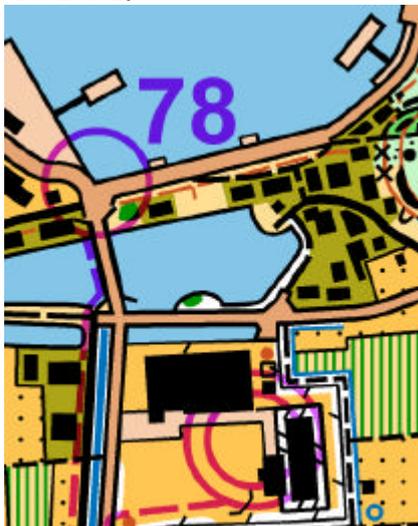
と、今回の白石島のコース設定では企んでいた。



今や大ヒット中の大海物語(なにか違う...) (三洋物産のサイトより引用)

## 中間は港に設置

イベントとしての盛り上がりを考えるとリレーではコースの途中に会場付近を通るスペクテーターズゾーンがあることが望ましい。スペクテーターズゾーンがあると、中間通過情報を役員側がフォローする必要がないため、運営労力がぐっと楽になる。コース設定ひとつで運営障壁を取り除くことができるのだ。



白石港に置かれた中間コントロール

どうせ置くならということ、スペクテーターズコントロールを白石島港に置いた。この狙いはいくつかあった。

ここで観客が選手を写真撮影してくれば、そのフレームに白石島港が背景として写る。海を背にしたオリエンテーリングという、他ではなかなか見られない映像を観客や選手に提供することができる。



中間で選手を応援する

さらに白石島の中でも目立つ位置にコントロールを置くことで、地元の人にオリエンテーリングを示すことができるという狙いもあった。

## スタートは見た目がすべて

スタート風景はリレーオリエンテーリングの中で最も絵になるシーンである。スタート位置も島の特徴を出そうということで、白石島港に設定した。港から走ってくる選手の後ろ側に海と港の風景が見えるようにレイアウトした。

この風景は観客のみならず、新聞やTV局などのマスコミで見栄えするよう考慮した。実際に掲載された新聞2誌ともこのスタート風景を採用している。マスコミや地元存在を訴えるにはこうした「見せる」レイアウトが必要なのだ。スタート横断幕の設置も選手に向かって設置したのではなく、マスコミに向けて設置した。



海と港を背景にスタートダッシュ!

ここまでの解説ではコースプランの実際にまで迫っていない。しかしここまでコンセプトとフロアプランを練ったおかげでその後のコースプラン作業は考えのプレがなく進めることができた。次号では実際の全日本リレーのコースプラン作業を解説したい。



(コースプランナ: 木村佳司)